

りつとあさよ

朝 露 生

りつとあさよはアメリカの寺小屋のお友だちである。りつはカリホルニアの首府サクラメントに生れた子、あさよは四歳のとき渡米したさうで、りつよりは二つ年下で、ことしは八歳である。何れも黒い髪の毛、黄ばみし顔色、まがふべくもあらぬ大和撫子である。

あさよは日本語に英語をまじえ、りつは英語に日本語をまじえ、何れ劣らぬおしやべりである。

八月十二日、この二人をつれて桑港の金門公園にゆく約束をした。朝八時の涼車にてゆく筈なのに、その十分前になつてもやつて来ぬ。どうしたのだらうとつぶやきて、とにかく近かきりつの家を訪れた。食事もすみ、衣裳も着更へて居るが、髪の毛が中々手間がかゝるとおつかさんは愚痴をこぼして居る。りつはこの國の少女だものやうに髪の毛の捲き縮れたるを好むのださうで、日本風の硬き髪にてはどうも思ふやうにならず、リボン

にてところどころ捲きしめて居るところだつた。あさよはときくと、二十分前にはまだ眠つてあつたとのこと、うちつれてその家にくくに、こゝはまだ着物も着かへず顔も洗はず、御機嫌甚だ斜めなりと云ふところだつた。

流石にわが前にてはだいつ子の暮も手短かにやつてのけ、漸くのこと、二人をつれたしたのは九時を過ぎること、二十五分。

加州大學生I君も同行することになつた。倫理と心理とを研究して居る人である。

二十分ならずして涼車は波止場へついた。ゆるやかなる坂道のやうな階段を、人波と共にのぼりゆくうちにいつしか身は船の中に立つて居る。ゆるぎ出したる船の樓上に、誰憚らずかけ廻つて居るはりつとあさよである。海原の狭霧まだ晴れやらで、病むる吾身には、うれしからぬ風、薄着せるあさよの身の上も氣遣ひて船室に呼び入れた。涼室を利用して暖爐やうのものをつくりたるところがある。老ひたる人や幼き子たちなどそのほとりの椅子によりてたのしげにものごたりして居る

その前にはガラスの窓ありて機械の動くさまなど
 手にとるやうに見ゆる。二つ三つ蒸氣の話など説
 き聞かせて居るうちに、船はついたとのこと、航
 海と云ふも可笑しき十五分、吾等は電車のお客さ
 んとなり、焼野の原を走せゆくのである。ガフ街
 にて電車を下り、佛教會を訪れた。開教師など、
 ものがたりして居るとビヤノにも飽きはてたる二
 人はわがそばにやつてきた。

何か用があるの、アノキャンデーがほしいのです
 しかしと云ひかけたるはあさよである。ウエー
 ウエツシユ トーウエセット アワーフレンド
 シエースセツク、ナヲ、と云ふたのはりつである。
 ア、さうですか、ぢやアチーと、見舞のものを講
 へるやう指示してやつた。しばらくしてその友を
 つれてきた。けふはすこしよいので、おつかさん
 にゆるされて久しぶりにて戶外にでたとのこと、
 ショール重げに引き被ぎて、これも大和の撫子の
 花、さみしき笑顔して吾に握手を求めた。日影う
 らゝかなる階段のもとなて、三人の少女たちは何
 ものがたるであらう。笑ふ聲折々起りて、あとは

異國ぶりなる唱歌の聲、洋々として起つた。
 こゝの幹事の君は、洞門の僧である。N君と云ふ
 のだ。I君と三人にてかのヤングレディーだちのお
 伴することゝなつた。とにかく正午であるからと
 云ふので、かの三人を呼び入れた。病める子は家
 にかへりたるよし、りつとあさよはI君とならび
 吾とN君とは相對して箸をとつた。日本式のお料
 理である。あさよいろいろの可笑しきことのみ云
 ふて一座を笑はせる。りつは極めて眞面目にて折
 々パーケアフルとかケーブステルとか注意を與へ
 る。姉さん顔する様子が可笑しいとして、吾等に冷
 やかされる。

彌々出かけやうと云ふので、N君は寫眞機を携へ
 吾等もうちつれて教會を出た。直ちに電車にのり
 て。金門公園にいたのである。あさよ何を思ひ
 出したか、公園ゆきはイヤ、クリフハウスにゆか
 ねばならぬと主張する。理由をさけば海水浴が出
 来るからと云ふ。アイスエレクトザワツペターとそ
 れに和するはりつである。しかしあさよは感冒に
 かゝつて居るらしいので、なだめすかして公園に

入つた。りつは元氣よく歩むが、あさよはものう
いやらに足どりをして居る。まだ不平が愈えぬか
ナアと嘲るはI君である。クリフハウスにつれて
ゆからかと言ふはN君である。

その實あさよは自動車にのりたくなつたなど、わ
からぬことを云ふのだ。ハテナ、讀めた讀めた、
何かたべたひのだらうと言ふとニッコリ笑ふ。困
つたナア、公園には一寸とキャンデーも得がたい
し、こうツト、音楽堂まで辛抱しなさい、あそ
こにはペーナツがあるよとはげました。照る日は
暑苦しくなりあさよないでもどこかへ休みたき心
地漸くにして音楽堂の椅子に腰かけペーナツ
に機嫌を直して、湖畔へ出だ。石のはとりに吾等
を立たせてN君撮映すること二回、配景と云ひ距
離と云ひ申分ないと自慢してあつたが、その夜現
象して見ると何日の間にか光線に消されて仕舞ひ
もの、影も形もなかつたとのことである。日本茶
園にゆきても一寸と撮映したがこれも徒勞だつた
よし。惜しいことをした。
クリフハウス熱がまだ再發しさうなので、その適

合樂としてシューツ行を決定した。二人は手を打
つて喜ぶのである。

高塚をめぐらしたる一と構、廣き汝を中にして、
その周圍には色々の娛樂所が設けられてある。

この池の水はいと高き水門より注がれて居るので
その頂より小舟にのりて急流を直下することが
出来る。シューツの名もこゝから出でしかと思ふ
塀に接して私設の電車路がある。池の汀にも電車
みちを造つて居る。各停車場あり切符賣捌所あり
て、この附近の地名に擬したる停車場が幾所とな

設けられてある。つまり市街の縮寫圖である。
高きは塀の頂をもめぐる様になつて居るので、景
色必ず面白からふと思ふ。セーテツク、レールウ
エーと名づけて居る。わが二少女はかつて幾度と
なくこれに乗つたさうで、今日は余り氣がすゝま
ぬらしい。そのために周圍の娛樂場に入ることに
した。

先きだてる二少女は手をうつて笑つて居るから、
何かと思ひのぞきこむと、こはいかに吾顔は蜘蛛
男のやうに醜く廣がりて手も足もいと小さく

なて居る。こゝには各種の魔鏡が備えられてある
ので、鏡面の勾排さまざまなるため映像はいろい
ろと現はるものである。その傍らには一々滑稽な
る説明を附して居る。シユーツの料理屋は効能か
くの如しと書いてある前にたてば、肥えふとりて
ピール樽のやうにうつる。シユーツの馬はこの種
の人を愛すと書いてあるところに立てば、骨と皮
ばかりの瘦ツ坊となる。なるほどこれでは馬も輕
くてよからふ。その他倒まになるもの、横つぶれ
につぶされたやうになるもの、千狀萬態の己が影
に對し、誰れか笑はずに居られやうか。料理屋の
前は時ならぬ故素通りしたがキャンデー屋の前は
案の定引きとめられて、花と飾れる賣子娘に、紅
葉や白雪や目もあやなる菓子の色々を賣りつけら
れた。あさはおツかさのお土産が出来たとう
れしがれば、りつはシスターへのプレゼントぞと
ボケツトをよくらして居る。

突如としてミーこれ乗りたいたと叫んだのはりつで
ある。回旋ブランコでも云ふてよからふか、池
の片ほとりに高さ高さ柱を立て、章魚が足をの

ばした様はその上から幾多のブランコがさがつて
居る。これが電氣の作用にて廻りいだすのである。
あさは一寸と危ぶんでためらつたが、りつはす
ばやく一つの籠に身を躍らした。見る間に回轉し
はじめ、高く大空にクルクルと廻りはじめた。
帽をうちふりて下をのぞきこむはりつである。あ
さは下に居て紅のハンケチをふり、喜ばしげに
足ふみして居る。十分ばかりにして次第に廻りか
たゆるくなり、りつも他の人々と共に下り來つた。
吾等はこの辭して音楽の音をしるべにガロッペ
ング、ホールスを訪れた。幾十となく立ちならびて
圓陣をつくつて居るのは木馬である。それが音楽
の音と共に回旋して、且つまた上下に動くのであ
る。のらして頂戴のらして頂戴とわが手にすがる
はあさはスマートなるりつは早くも切符を買ふて
ニツコリして居る。音楽の響バツタリやみて、先
様か代りとなつた。わが二少女も相次ぎて馬に跨
つて居る。幼きものをつれたる父もあれば、あで
やかなるレヂーもある。七十ばかりと見る老女も
のつて居る。金髪の少女もある。愛くるしき少年

もある。この國の娛樂はまことに平等にて、老いたるも若きも何のへだてもなく無我無心に遊び戯るゝは流石に大陸の習慣である。I君もN君も乗るよりもうれしと云ひたげな顔つき、この音楽の調子を合せ、この天國の騎馬隊をながめて居る。吾等の前を通るごとに手をあげてさしまねぎゆく二少女誰れにもまして美しく見ゆるも奇だ。彼等の下り来りし頃は時計は三時に近くなつて居る。I君とN君とは急ぎの用事あればとてこゝにて吾等に別れ去つた。

りつとあさよをつれて動物園を見た。晝寢して居る獅子や、ひとりつぶやさて徘徊して居る虎の外、さまで二人を喜ばすものもなかつた。二楹の回廊には猿の家ありて、幾百の猿は遊んで居る。こゝも大急ぎに通りこして、パノラマ館にも一寸とぞきこみたるばかり、その他四五種の見せものあつたがもはやかへるべき時刻となつたので、とうとこゝを出ることになつた。四時後は電車はいつもこみあひて、乗心地甚だ面白からぬからである。恰もすきたる電車に乗ることが出来たので、安ら

かに波止場につき、また船の中の人となつた。日はうらゝかにして、波のうねりもいとうるはしくデッキの上のそいろあるきに、吾は病むる身をもうち忘れて、詩の句などかすかに誦して居る。りつとあさよもしとやかにわがそばに立ちて、ゆきちがふ船をながめて居る。ア、うれしきサンデーであつた。異境の空にも吾をなぐさむるものあるものを、吾は徒らに前途を悲觀して何とするものぞ。心なくしてとぶ海鷗を見るも、今日は何となくうれしくたのもしき心地する。(丁)

- ▲珍奇の鏡ピン は英國リヴァプール市の某の偏用しつゝあるものにて一個の人間の眼珠の化石せるもの黄金の椎の内に嵌められあるものにて此の球は此人多くの學者と共に南米ビルー國に探險せし時發見せるなりとぞ
- ▲女理髮師 はオーストリアにては一定の試験を受けて許可を得たる後開業する者なるが同國にては此種類の理髮師年々増加しつゝありと
- ▲大食鳥 印度のアサニータントといふ鳩の類の鳥は背は高くして五尺に達し翼を張る時は十五尺に及ぶ此鳥頗る大食にして再びは糞を丸呑にすといふ